

第二三二回ペン川柳会

令和五年九月二十六日

お題 「虫」

■ 三春（火酒）

ウオツカ

「きゃくゴキ！」に亭主ふりむき「呼んだかい？」
チンチロリン茶碗たたいて月見酒

■ 浜田（我々好）

ウイスキー

腹の虫治まるところのない政治
虫酸走る知ったかぶりの解説者

■ 松谷（零門）

れいもん

長祝辞早く終われと腹の虫
秋口の花に水やりまた刺され

■ 稲宮（井波）

いなみ

未来シェフ大豆と虫で味競い
あそこ盗れ虫酸が走る修羅の山

■ 塚田（拿々）

だだ

回答が玉虫色で煙に巻く
ブラックか風呂に入れず水虫に

■ 山縣（安兵衛）

やすべえ

異常つづき人間様は虫の息
どうするの虫も殺さぬいい男

■ 曾山（酩帝）

めいてい

この年でなんの因果か「虫歯」病む
弱虫は卒業したいでも駄目か

■ 大野（だし）

昆虫記維新の後を動かした
別荘で虫が知らせるこの俺に

■ 八木（明迷）

めいめい

虫つかずお局様もアラフィフに
同性婚蚤の夫婦はありえるか

■ 安藤（晃二）

てるつぐ

酒飲みは皆蓼を食う小料理屋
腹の虫まだ収まらず社内信

世話人 塚田 實（だだ 拿々）